

大草谷津田生きものの里 自然観察会

バッタとカマキリ

晝間 初枝（四街道市）

日 時：2018年10月7日（日）10:30～12:00 天候：晴れ

参加者：29名（大人15名 子ども14名）

担当指導員：萩 将勝 晝間 初枝

参加指導員：岡田敬子、木下順次、山下美佐子

台風24号及び前日の強風により、入口近くの杉林の杉が倒れ、観察会の実施が危ぶまれたが、市の方による整備で何とか開催することができました。

徐々に家族連れが集まり、待ち切れずに虫とりを始める子どもたち。予報では気温が上昇し蒸し暑くなるとのことだが風があり、比較的しのぎやすい。

開始に先立ち、市の方より杉林はまだ傾いた木もあるので、立ち止まらず素早く通過するようにとの注意があった。そのあとテーマの“バッタとカマキリ”特にカマキリについてその一生、生活、最近見つかった外来種ムネアカハラビロカマキリ等の話をする。下見ではカマキリをあまり見つけることが出来なかったので、張り切ってカマキリハンターになって見つけてくれるように子どもたちに声をかけ出発した。

入口近くのケヤキにアリの道、地面から2m近く上がっている。右に左に見られるジョロウグモの立派な巣に感心しながら進む。杉林は倒木後、切られた杉が散乱、林の中は明るくなってすっかり様変わり。落枝に気をつけながら谷津まで足早に移動する。ここからはじっくりカマキリ探し。直前の下見はかろうじてコカマキリ1匹ということもあり、カマキリハンターの子どもの期待が高まる。

しばらく進むと「カマキリみつけ！」コカマキリを1匹、続いてもう1匹見つけたところでコカマキリの特徴を観察した。ハラビロカマキリ発見！チョウセンカマキリ1匹、2匹・・・次々と見つかるカマキリに一番驚いたのが担当の2人でした。たくさんの目、子どもたちの目に驚くばかりだ。畦において、バッタやイナゴとり、アカガエルに興味のある子、オニヤンマを捕えようと奮闘するお父さん、お母さん、それぞれに生きもの探しを楽しんだ。

たくさんの生き物をかごに入れて集合。産卵前のオオカマキリ、オオカマキリとチョウセンカマキリの見分け方、ハラビロカマキリの独特な体形、コカマキリの体色等々、みんなで見合って確かめ合う。中でもコカマキリの体色の微妙な違いから保護色について考えた。

そのあと、イナゴの3段跳びに挑戦。“ホップ、ステップ、ジャンプ”3歩目に旗を立て飛距離を競った。最後に、トノサマバッタを田んぼに向けてとばし、捕まえた生き物を自然に返し、全員揃って入口まで戻り無事観察会を終えた。



イナゴ 3 段跳び イナゴくんがんばれ！